



研修便り



高知市教育研究所教職員研修班
令和4年11月8日発行 No.160

◆「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、教育研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。
◆職員会等での情報共有にご活用ください。

情報教育研修会④「PBLとプログラミング教育～問題発見・解決能力を鍛える単元づくりの在り方～」

講師：高知大学 川村 晶子 特任教授・学長特別補佐

令和4年7月26日(火)実施

○ 対象：高知市立学校教職員（参加希望者）

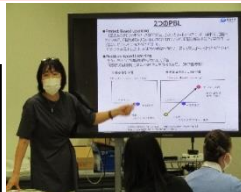
概要 複雑で変化の激しい現代社会に対応できる問題解決力を強化し、子どもたちが自律的に深い学びを行うためのプログラミング的思考の本質や、答えのない問いについて考え続ける力を付けるために必要なカリキュラム・マネジメント、単元づくり・授業づくりについてPBLの手法を用いて、講義・演習を行う。

(1) 講義：「令和の日本型教育とPBL」

理論編

「PBL(Project Based Learning)」

未来教育プロジェクト学習：「意志ある学び」を理念とした学習方法。問題解決後のビジョンと問題解決のゴールを明確にして自律的に目標へ向かい学習し、ビジョンの実現が最終ゴールである。



(2) 演習：「アイデアソン体験」

実践編

④ 根拠に基づいて未来を創造し仲間と創造する(デザイン思考)

アイデアソン：アイデアとマラソンを掛け合わせた造語。特定のテーマについてアイデアを出し合い、評価を競う。

～VUCA社会(将来の予測が困難な時代)を生き抜くためのPBL学習の方向性～

① 現状を知る → ② 子どもたちが活躍する未来から今を考える → ③ 自分の授業案に取り込んでみる

探究的な学びの時間は、それぞれの船が大陸を目指し航海するイメージ【子どもたちが活躍する未来の社会をイメージ】

未来

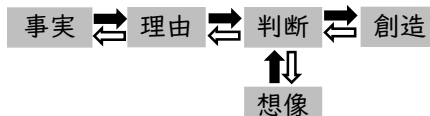
答えのない世界で判断を支える
リベラルアーツ(教養)の養成

各教科教育

コラボレーションで知恵を磨く

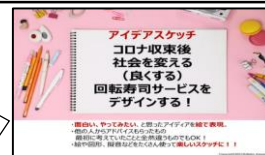
〈探究的な学びの時間では〉
プロジェクト型学習(OODA型)
・何が起きるか分からない
・世の中の変化に合わせて学習が変化
・社会にオープンな場
社会に問えるよう合理的に組み立てる

やりたいことを実現するためのプロセス



体験演習

今回の
テーマは
こちら



テーマについて自分が
感じる課題を考える

社会への役立ち方、来店した人が感じる
気持ちや行動を考えてどんな店にするか？

流れ

自分視点で
課題を定義する

着眼点を
整理する

社会と
関連付ける

課題について
アイデアを出し合う

プロジェクトを
アイデアスケッチにまとめる

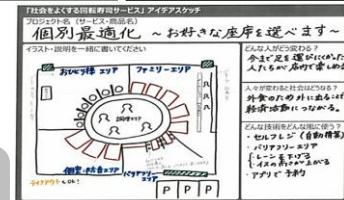


- どんな人が、どんな場面で…
・ 何に困っているか？
・ 解決したらどう思うか？
・ 気持ちが変わったら何が起るか？

演習で各グループが作成した
アイデアスケッチは、こちら
から閲覧できます。



https://my.ebook5.net/kt10-sousei_hZHtKo/



アイデアスケッチ【例】

【受講者の感想】

- ・ PBLは学びの本質だと思った。ただ形だけの学習をするのではなく、社会に還元できる中身のある内容にするために、思考できる子どもを育てなければならないと思った。
- ・ 普段の授業からデザイン思考や教育のDXを意識したい。各教科の授業で、プロジェクト型学習に生かすことができるように、思考の方法を身に付けさせたい。

特別支援教育学校コーディネーター研修会

令和4年8月22日（月）実施

【研修】 『校内特別支援教育推進のために ～「気になる子」が通常学級に溶け込む！10の理論・10の技法～』

講師：名城大学 曾山 和彦 教授

【概要】 特別支援教育コーディネーターとして必要な専門的知識・技能を習得し、その資質・能力の向上を図る。



教室でできる特別支援教育の「王道」は…
ハンカチを持ち上げる、つまり「学級づくり」です！
「ハンカチ理論」（理論1）



ほつれた糸（気になる子）ではなく、ハンカチ（学級集団）を持ち上げることで、「気になる子」が周りの子に溶け込む学級集団が生まれます。

学級集団が「居場所」となるための2つの条件とは…？

1 ルールづくり

「2本のアンテナ理論」（理論2）

「ルールを破ったとき（ルール違反）を見逃さないアンテナ」と「ルールを守っているとき（ルール遵守）を見逃さないアンテナ」

2 ふれあいづくり

「機織り理論」（理論4）

教師と子どものかかわりの糸（縦糸）と子ども同士のかかわりの糸（横糸）を太く織り上げていけば、やがてきれいな機（学級）に仕上がる

アイメッセージ（技法1）

- ・ありがとう！
 - ・嬉しい！
 - ・助かる！
-

10の理論

「気になる子」が通常学級に溶け込む！

10の技法

- 1 ハンカチ理論
- 2 2本のアンテナ理論
- 3 泳力&浮き輪理論
- 4 機織り理論
- 5 グローブ理論
- 6 穴の空いたコップ理論
- 7 現実の打ち出の小槌理論
- 8 引き分け理論
- 9 豆まき理論
- 10 軌跡・奇跡・輝跡理論

- 1 アイメッセージ
- 2 勇気づけ
- 3 ？の問いかけ
- 4 リソース探し
- 5 リフレーミング
- 6 例外探し
- 7 SST（ソーシャルスキルトレーニング）
- 8 SGE（構成的グループエンカウンター）
- 9 ジョイニング
- 10 サバイバル・クエスチョン



曾山先生の書籍紹介
「気になる子」が通常学級に溶け込む！10の理論・10の技法
【ほんの森出版】

特別支援教育コーディネーターに最も求められる力とは…？

このような力があると、「気になる子」が笑顔になる校内体制が整います。

連絡調整能力

〈連絡調整能力の具体は…〉

- 1 悩める担任、保護者の話を聴く力
- 2 校内支援委員会開催を調整する力
- 3 専門機関と連携する力

長期的には、コーディネーターとして職場内のコミュニケーションをとる役に徹し、先生方が笑顔で仕事ができる雰囲気や環境づくりを行いたいと思います。大切にしたいキーワードは、「安心」「安全」「信頼」「傾聴」「一緒に」「鎖き」「Iメッセージ」などです。曾山先生のお話から、私達の考え方や声かけ、接し方など大切なことを再認識しました。

受講者の感想



1 悩める担任、保護者の話を聴く力
～ 相手（担任・保護者）の話を聴こう！ ～

- 心に余裕をもつ＝メンタルヘルスの維持
 - ・ 職場内のコミュニケーションは、職場メンタルヘルス向上の鍵！
- 相手のもつ力・可能性を信じる
- かかわる相手に関心をもつ
 - ・ 関係づくりの第一歩は相手への関心
- 自分にOKという
 - ・ 自分を大切にできない人は、他者は尚更大切にできない。だからこそ自尊感情を大切に！

2 校内支援委員会開催を調整する力
～ 教頭先生とタッグで！ ～

特別支援教育コーディネーターと教頭先生とのタッグで校内体制づくりを行おう！

- ・ 校内と校外をつなぐ役割



3 専門機関と連携する力
～ 専門機関とタッグで！ ～

特別支援教育のプロの力を借りよう！

- ・ 教育相談機能
- ・ 学校支援機能
- ・ 教員研修機能
- ・ 教材教具や施設設備提供

